



急性期病院から在宅への「橋渡し」の役割を担い 医療・介護の両面から西胆振の療養生活を支える

医療法人財団 五紀会

室蘭太平洋病院

急性期病院と地域・在宅をつなぐ 地域のハブ病院としての存在感

室蘭市西部の白鳥台で昭和54年(1979)に開院した室蘭太平洋病院。かつては地域の急性期医療を担っていたが、高齢化が進み地域の疾病構造と医療ニーズは変化した。病院・病床機能の転換を図る中、たどり着いたのが地域の基幹病院と連携し、急性期医療から在宅復帰までをつなぐ「橋渡し」をするという現在の役割だ。

急性期病院で治療を終えた患者に対し、74床の一般病床で在宅復帰の準備、早期社会復帰のための集中的なリハビリを提供。経過観察が必要な患者には、136床ある療養病床で在宅復帰をサポートする。内科・外科・循環器科においてはサブアキュート機能も発揮する。また、同法人が運営するケアハ

ウス、グループホーム、通所リハビリと連携し、介護予防から要介護までを包括的に捉えた質の高い介護・リハビリも提供する。地域医療の「ハブ」として、同院は欠かせない存在となっている。

職員へ理念を浸透させ 経営の立て直しに成功

時代に応じて診療内容を変化させてきた同院だが、かつて「崖っぷち」に陥ったこともあった。病院の経営状況の悪化が医療の質の低下を招き、地域からの信頼を失ってしまったのだ。その状況を変えるために動いたのが、平成21年(2009)に着任した伊藤真義前理事長・院長(故人)と、印宮朗理事長・院長だった。

2人が最初に、そして最も力を入れて取り組んだのは、職員の意識改革だ。「患者さん

とご家族にとって最も良い医療、満足してもらえる医療を提供する」という理念を掲げ、「患者の命を守る」「人を助けたい」という医療の原点に全員が立ち戻った。心肺蘇生など救命処置の正しい知識や技術を学び直し、接遇や勤務態度も一から見直した。思いやりとてなしの心を育み、「笑顔であいさつ」を全職員が徹底。明るく親しみやすい病院づくりに職場一丸となって取り組み、収益改善にもつなげた。

印宮理事長・院長は「伊藤先生と二人三脚で知恵を出し合い、病院づくりを進めてきました。着任当初に届いた厳しい声はなくなり、近年はお褒めの声や頼られることが多くなりました。ここまでやってきたかがありました。伊藤先生がよく話していた『病院を人々の笑顔でいっぱいになりたい』という夢の実現に向けて、一層努力していきます」と語る。

「職場」という視点でみる病院 働きがいのある職場づくり

職員が誇りとやりがいを持って働けるよう、現在も組織体制や教育体系、福利厚生を整備は続く。各部門で院内認定制度を設け専門性の向上を図るほか、資格取得をサポートする制度を用意し、職員のキャリア・スキルアップを手厚く支援している。また、ワーク・ライフ・バランスを実現するために院内保育所「虹の丘幼稚園」の設置などの取り組みを行ったり、空調設備の導入、職員食堂の充実などの環境整備にも注力する。

この背景には、印宮理事長・院長の信念がある。一つは、医療サービスの担い手である職員が満足できる環境があってはじめて、質の高いサービスを提供でき、患者や職員の集まる魅力ある病院となるということ。そしてもう一つは、人口減少が続く地域で、病院は「職場」としても地域の財産であるという考えだ。

「当院は地域医療の要であると同時に、人口減少が進む室蘭で300名以上の職員の生活を支える職場でもあります。選ばれる病院として生き残ることが、地域の活性化にもつながる。医療機関としても職場としてもより魅力と可能性のある場所にしていきます」

治療から在宅ケア、看取りまで 「人も地域も診る」を貫く

国は在宅医療・介護を推進しているが、老老介護が6割に迫るといわれる中、西胆振地域でそれを実施する環境の整った世帯は多くない。印宮理事長・院長は「患者さんが最期を病院で希望したり、ご自宅での療養にご家族が限界を感じた時、安心して任せてもらえる病院でありたい」と力を込める。患者さんの最後の生活と「生きる気持ち」を全力で支え、「自分の人生は意味ある良いものだった」と穏やかな思いを抱いてもらえるような医療を理想に掲げ、同院は地域に在り続けていく。



●法人職員の子どもを対象とする院内保育所。生活や遊びの中でいろいろなことを吸収し、子どもたちの可能性や資質を引き出す質の高い保育プログラムが、多方面から評価されている



●広くゆったりとしたリハビリテーションセンター。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などによる、充実したリハビリプログラムを提供している



理事長・院長
印宮 朗 (いんぐう・あきら)

平成3年(1991)3月弘前大学医学部卒業。同年5月札幌医科大学付属病院第二外科(現心臓血管外科)入局。道立小児総合保健センター心臓血管外科医長、国立病院機構函館病院小児外科医長、札幌医科大学付属病院第二外科助教、共生会病院副院長などを経て、平成21年(2009)室蘭太平洋病院に着任、平成22年(2010)副院長就任。令和2年(2020)9月より現職。日本外科学会外科認定医。日本胸外科学会胸部外科認定医。日本医師会認定産業医。BLS(一次救命処置)、ACLS(二次救命処置)、PALS(小児二次救命処置)プロバイダー。医学博士。趣味は溪流釣り。



医療法人財団 五紀会
室蘭太平洋病院

〒050-0054 北海道室蘭市白鳥台5丁目19番2号
TEL:0143-59-2211 FAX:0143-59-3991
http://taiheiyo.jp/

- 診療科目/内科、循環器内科、外科、リハビリテーション科
- 病床数/210床(一般病床74床、療養病床136床)
- 職員構成/医師12名(常勤5名、非常勤7名)、看護師74名、准看護師22名、看護助手44名(うち介護福祉士19名)、薬剤師3名、診療放射線技師2名、管理栄養士2名、理学療法士13名、作業療法士5名、言語聴覚士3名、マッサージ指圧士1名、クラーク5名、医療相談員2名、診療情報管理士1名、事務部員23名、保育士13名、運転手9名<介護福祉部>介護支援専門員5名、看護師3名、准看護師2名、介護福祉士39名、作業療法士1名、ケアワーカー4名、事務員5名、その他10名

- 沿革
- 昭和54年(1979)4月 室蘭太平洋病院開設(176床)
- 昭和60年(1985)10月 1病棟追加により210床に増床
- 平成12年(2000)3月 有珠山噴火に伴う医療救護班派遣 太平洋在宅介護支援事業所開設
- 平成14年(2002)10月 新棟リハビリテーションセンター、介護保険病棟(現医療療養病棟)60床新築完成
- 平成14年(2002)11月 通所リハビリテーション「コラソン」開設
- 平成20年(2008)7月 グループホーム白鳥台開設
- 平成21年(2009)10月 印宮朗副院長(現院長・理事長)就任 ケアハウス白鳥の丘開設
- 平成26年(2014)10月 虹の丘幼稚園開設
- 平成29年(2017)11月 障害者施設等一般病棟74床、医療療養病棟136床の施設基準取得
- 令和2年(2020)9月 印宮朗理事長・院長就任